ほりかね道

狭山市立堀兼中学校便り
令和6年度１月号
発行者 和 田 雅 士

2025「感じる」、自分のセンサーを豊かに！

令和7年もよろしくお願いします。

堀兼中生の人間性を高める１月の行動目標

「場に応じて声量をコントロールできる（TPO に応じた言葉遣い）」

例:『校長室、職員室、保健室前では適切な声量で（大声を出さない）！』

「光陰矢のごとし」、2025年という新しい年を迎えました。「ミレニアム」に沸いた年からもう四半世紀が経つのかという印象を抱きました。デジタル時代、グロバール化が加速するのと同時に、年月の早さも加速している様に私の時間のセンサーは感じます。保護者、地域、本校関係者の皆様、本年もどうぞよろしくお願いします。

「感性、感覚を大事にしたい、させたい」

デジタル社会が進む中、それ以前とは格段に便利であり、コスパ（コストパフォーマンス）、タイパ（タイムパーフォーマンス）が求められる時代になってきています。そんな時代の変化に子どもたちが対応すべく、学校では一人一台端末の導入や、ICT 機器を使った授業展開、アプリを使った学校からの連絡や通知の配信、アンケートの回収や保護者会の出欠確認の DX 化など学校の教育活動や教育方法も大きく変わってきています。一方で、デジタルの仮想現実を見たり、聞いたりする機会は急増しているものの、現実世界を直接五感で感じる機会は保障できているのか、五感で経験して研ぎ澄まされる「感性、感覚」は豊かになっているのか、と疑問を感じることが増えました。人類は、以前より使わなくなった五感の感覚のいずれかが、やがて退化してしまうのではないかと危惧さえします。

三学期の始業式の校長式辞の中で、生徒たちに今年、大切にしてほしいことを漢字一文字で示しています。

「感」です。

「感」の柱となる意味として「物事や外部に触れて、心を動かす、心が響く、そして内部に変化を生じる」と伝えました。また、五感以外にも、第六感と言う感覚があるが、五感を研ぎ澄ませたり、経験を重ねたりする中で、第六感が生じるのかもしれませんとし、最後に「堀中生のみんなには、毎日の学習を通じて学習した内容や気づきに触れて心を動かす。仲間の喜びや優しさ、悲しみやつらさに触れて、心を動かす。学校内外の出来事、体験的な学びに五感で触れて、何かを感じ、またそうして第六感を磨き、自分の内面に変化を生じさせてほしい。みなさんの「感じる」というセンサーを磨いてください。」と願いを伝えました。

私たち、堀兼中職員は、生徒が豊かな感性と鋭い感覚を磨き、自分の心を動かし、他者の心を揺り動かすことのできる生徒に育ってほしいと思っています。

1月の主な行事予定

日	主な行事
[redacted]	[redacted]
[redacted]	[redacted]
[redacted]	[redacted]
[redacted]	[redacted]
[redacted]	[redacted]
[redacted]	[redacted]
[redacted]	[redacted]
[redacted]	[redacted]